

令和7年度

城東小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

夢に向かって、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成

校長

榎本 孝裕

学力向上推進員

富崎 美幸

【小中連携における共通の取組】

語彙力の育成

【各校の取組状況の把握について】

各校の授業参観や学力向上コラボレーション事業を通して把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基本的な知識・技能が身についている児童が多い。 ●学力の個人差が見られる。 ●学習の積み重ねが不十分な児童がいる。	・どの児童も基礎・基本となる学力が定着している。 ・語彙を広げ、自分のものとして活用することができる。	・学力調査やステップアップテスト、学級で行っているテストから児童の学習状況を把握する。 ・朝のスキルアップタイムの時間等を使い、ドリル学習やプリント学習、ICTを活用して基礎・基本となる学力が定着するようにする。 ・「語彙力の育成」をテーマに中学校区で連携し、情報交換や合同研修を行う。 ・読み聞かせや作文指導等を通して、たくさんの言葉に触れる機会を意図的に設ける。	・書く経験を積ませる。(どの授業でも自分の考えを書いたり、振り返りを書いたりする。) ・語彙力の育成に向けた取組をそれぞれのクラスで毎日継続して行う。(短文集の音読や視写、名文の視写、暗唱、短文作り、しりとりなど)	・各学年でドリル学習やICTを活用した反復学習をしたり、ミニテストで定期的に定着を確認したりすることで、基礎・基本となる学力が定着してきた。 ・語彙力の育成に向けた取組を教員一人一人が継続して行うことで、語彙の広がりや書く力の向上が見られた。知識として得た語彙を使いこなす力をつけることが今後の課題である。	・語彙力の向上に向けたよい取組を継続する。短文や作文を書く機会を増やし、習得した語彙を使えるようにしていく。 ・基礎・基本を定着させる時間を確保し、ICTも活用して、一人一人の児童が力を高められるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを他者を意識して伝えようとする児童が比較的多い。 ●自分の伝えたいことを正確に伝えることが難しい児童がいる。	・相手の話をしっかりと聞き、相手や目的に応じて自分の伝えたいことを正確に表現し、伝えることができる。 ・多様な表現方法から選び、効果的な伝え方ができる。	・子ども同士の対話の機会を増やす。理由や根拠を児童に問いかける場面を増やし、伝える力が向上するように努める。 ・多様な表現方法を知らせ、その中から児童が選んで表現できるようにする。 ・他者の意見を認め合える温かい学級経営を行い、自分の考えが言いやすい雰囲気づくりに努める。 ・他者に自分の意見を伝える経験をさせるために、話し合い活動を児童主体で進められるように支援する。	・教員がICT機器を有効に使えるようにするための校内研修を行う。 ・話し合う場面・討論する場面を大切にし、他者と交流する機会を意図的に取る。	・ペアや少人数で対話する活動も取り入れ、児童同士が交流する機会を取ることができた。自分の考えを伝えたり、多様な意見を認めたりしようとする児童が増えてきた。 ・教員が対話の機会を工夫することで、授業改善にもなった。それが、児童の学習意欲の向上にもつながった。 ・ICTの活用には課題が残る。	・他者と意見を交流したり、認め合ったり、つないだりできるような授業づくりを行うための教材研究の時間を確保する。 ・ICT活用のための研修を充実させ、児童の伝え合う活動に有効に活用できるようにする。 ・安心して話すことができる学級集団を育てる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して真面目に取り組もうとする児童が多い。 ●学習に対して受け身になってしまい、自分で学習課題を見付けたり、学習を自己調整したりすることができていない児童がいる。	・見通しをもち、自己調整力を発揮して、学習を進めることができる。 ・めあてをもとに学習に取り組み、学びを振り返ることで、その学習の成果や課題について自覚することができる。 ・自分なりの課題解決の方法を見付けることができる。(既習事項を活かすことができる。)	・児童相互で関わり、学び合う機会を意図的に取り入れていく。 ・毎時間の学習のふり返りを充実させる。ノートに書く・挙手して発表する・友達と話し合う・ICTを活用するなど、多様なふり返りの機会を設ける。		・授業のめあてを児童が理解し、見通しをもって課題解決に向けて取り組んだ。意欲的に学習に取り組むことができた。 ・真面目に学習に取り組むことができるが、自分なりの方法で課題を解決したり、学び方を自己調整したりできる児童は多くない。	・児童の興味・関心がある活動から、児童主体でできるように、計画的に学習を設定していく。 ・効果的な取組を共有し、実践する。 ・振り返りを充実させ、次の学習に生かせるようなものにする。それをもとに、自己調整力を育んでいく。 ・ポジティブな行動支援を行い、学習に対する自信をもたせる。